

ふくしま

再生短信

10/22活動報告会2017 避難指示解除から半年 今何が課題か-村民の声

共感の歩み



【写真】1.東大農学生命科学研究科長・丹下健さん。2.飯館村復興対策課長・中川喜昭さん。3.山田牧場主人・山田猛史さん。4.佐須行政区長・佐藤公一さん。5.佐須老人クラブ副会長・菅野永徳さん。6.飯館村議・佐藤健太さん。7.明治大学農学部食料環境政策学科専任講師・本所靖博さん(右)、同研究室ゼミ生・仲安真凜さん(左)。8.飯館村農業委員会会長/本会副理事長・菅野宗夫さん。9.いいたて花壇G「いいはな」初代リーダー(公務員)・佐藤聡太さん。10.富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー(SSL)代表取締役社長・林恒雄さん。【背景】会場全景。

2017年10月22日午後3時から、東大弥生講堂において、ふくしま再生の会活動報告会2017「避難解除から半年、今何が課題か-村民の声」が、本会主催、東大農学生命科学研究科アグリコクーン農における放射線影響FG共催、渥美国際交流財団SGRA後援、により開催。会は本会理事長・田尾陽一さんの司会で進行。

1部全体討議。東大・丹下健さん「次の世代につながる取り組みを続けたい」福島県相双農林事務所農業振興普及部長・森口さん「模索しながら畜産再興」飯館村中川課長「2011以来の再生の会の空間線量測定土壌測定に

感謝、高橋日出夫さんのトルコキキョウ、山田猛史さんの畜産、なりわいも生き甲斐も大切」猛史さん「飯館で肉牛80頭目指す、次世代に繋ぐ」公一さん「再生モデル事業を進め、佐須小学校で文化の継承、再生の会と限界集落にしない交流基盤作る」永徳さん「農工商があって生活が成り立つ、仮設のログハウス移設して活力ある交流へ」佐藤健太さん「商工業に従業員集めること、村の存続こそ肝心、外国人の移住もあってよい」東大溝口勝さん「若い人のエネルギー(応援団)で老人の目が変わった」田尾「若い人集める農業高校も一案」明大本所さん「流通に

は他に負けないデザインが重要」宗夫さん「再生の会との出会い2011/6/6が原点、なりわい+環境整備+コミュニティ復興で分断克服」聡太さん「村の交流を目標見つける場に」富士通SSL林さん「村の中で考え、流通や食品など沢山の手の化学反応に期待」。

2部ポスターセッションの後、3部総括討論、田尾さん「再生事業は人と人のつながり、自然と人間の共生は東京一極集中ではなく飯館村で実現」。

懇親会は猛史さんの牛肉、宗夫さんの佐須米、ハウス野菜に舌鼓。ポスター22枚は再生の会HPへ。詳細報告書は後日発行。(撮影・文責:若林一平)